

門前に「卯の花」を訪ねる



神戸 桜の須磨寺 2002.3.30. -

- 10. 1. 小学唱歌「青葉の笛」歌碑 & 平 敦盛 と 青葉の笛
- 10. 2. 須磨寺 門 前 と 須磨寺名物「卯の花」
- 10. 3. 桜の須磨寺界限 探訪アルバム



「神明道路に沿って須磨寺の駐車場があり、そこを降りればそのまま須磨寺の境内・門前へ楽に行ける」と家内が聞いてきた。

「雑誌アエラに門前の「しらはますし」の太巻き「花巻」寿司が名物として載ってるよ。卯の花はなくなったのかいな・・・」地震と共にすっかり忘れていたこの須磨寺界限。付近は時々通るのだがほとんど足を踏み入れた事のない街。

阪神間を東西に長く伸びた六甲山の峯々が西の端で海岸に落ちるところ 明石海峡を眼前に須磨の地がある。私の自宅のある須磨・垂水の丘陵地を南の須磨海岸へ約 4km ほど降りて行ったところの丘陵地南端に須磨離宮 源平の戦いの一の谷 須磨寺等の旧蹟が須磨の海を眼前に並んでいる。

神戸市で一番海と山とが狭まったところで、海側から山側へ JR 山陽本線・国道 2 号線・山陽電車・阪神高速道路がこの狭いところにひしめいて通り抜ける。

阪神・淡路大震災では極めて大きな被災を受けたところである。大震災の約一週間後 夜 西から帰ってきて真っ暗な JR 須磨駅に降り、瓦礫となって並ぶ須磨寺の門前を呆然と本当に暗い気持ちで「頑張れよ 頑張れよ」と念じながら通り抜け、自宅へ登っていった道である。

須磨寺といえば名物「卯の花」

須磨から月見山界限では名物として広く知られたお鮓。しめ鯖をのせた鮓の上にまっ黄色に炒った「お

から・卯の花」をまいた握り鮓。 この「卯の花」を名物にしていた月見山のお店が店を閉め、その後の地震でトンと忘れていたお鮓。 思い出したように「須磨寺の界限へ行けばあるそう。一度食べたいなあ・・・」とよく話題に・・・。

そう 言えば 須磨寺の境内にあるあの源平の庭や「青葉の笛」敦盛塚もどかのようにになっているだろう。そして一弦の琴も。



五重塔 2002.3.30

月見山の須磨離宮の前を右に曲がり第二神明道路を1000mばかり進みトンネルをくぐった所の山裾に接して須磨寺の駐車場。下には新緑の山に映えて須磨寺の五重塔や境内が満開の桜の中に埋もれ、その向こうに須磨寺の街そして須磨の海が照り輝いている。駐車場のエレベーターで下りると須磨寺の一番奥の境内。

阪神間の小学校では必ず一度は遠足で行った事のある「須磨浦公園・須磨寺」そして習った「源平一の谷の戦い」唱歌「青葉の笛」。

須磨に住んで何度か出掛けましたが、ここ十数年境内には行ったこと無し。

3月30日(土)「須磨寺の桜」も今日あたりは満開に違いないと暖かい日差しの土曜日の昼 家内と二人 食い気半分で須磨寺へ出掛けました。



須磨寺境内の桜 2002.3.30.

広がる墓場を抜けると五重塔と本堂のある広場。境内は桜が建物や木々の緑に映えて美しい。通常は南側からまっすぐに山に向って多くの店が並ぶ門前街を抜け、山門を境内に入り、さらに進んで石段を登ると本堂・五重塔のある広場に出る。

随分人も多く境内もよく整備されて変わったとの印象。お大師さんの日以外はどちらかというと静まり返り、山懐の木々の中にある須磨寺と思っていましたが新しい建物が建ち、宝物館も一般公開され随分オープンな寺に変わったと思います。



須磨寺の山門の桜 2002.3.30.

10.1. 小学唱歌「青葉の笛」歌碑 & 平敦盛と青葉の笛

「一の谷のいくさ破れ うたれし平家の公達あわれ
暁寒き須磨の嵐に 聞こえしは これか青葉の笛」



小学唱歌「青葉の笛」歌碑 須磨寺境内

須磨は寺かつての源平の古戦場「一の谷」のすぐ近くに位置しており、一の谷の戦いで敗れた平家の若武者 敦盛を歌った小唄唱歌「青葉の笛」の歌碑があり、宝物殿では「青葉の笛」が公開展示されている。

五重塔の上の墓場から本堂のある広場へ降りてくる墓場の出口に敦盛の首塚があり、さらに本堂に出る広場の端に「青葉の笛」の歌碑がある。 静かな境内の中に「青葉の笛」のメロディが流れ、中年のおばさんが群がって、メロディにあわせて歌っている。一人が歌にあわせて歌碑の横にある台のボタンを押すとメロディーが流れる。やっぱり 昔の世代 自然とこの歌が出てくるようだ。どことなく物悲しい静かな歌であるがしっとりと落ち着きが自然と口について出てくる。

平 敦盛 と 青葉の笛 「平家物語」より



須磨寺境内 源平の庭

源平の合戦も終わりに近づいた寿永（じゅえい）3年（1184年）2月、軍勢をたてなおした平家一門は、一の谷（現在の神戸市須磨区）に陣をはりました。前は海、後ろは切り立った崖という、難攻不落に見えた平家の陣でしたが、源義経や弁慶らの思い切った奇襲によって、

あっという間に崩れ去ってしまいました。
 海上の軍船に向かって逃げる平家を追って荒武者熊谷直実が海辺までくると、逃げおくれた平家の大将らしい騎馬武者が、味方の船に追いつこうと海に馬を乗り入れておりました。
 直実は「やあやあ、そこ行くは平氏のおん大将とみうけたり、敵に後ろをみせるはひきょうなり。返せ返せ。」と右手に高く鉄扇をかかげて、大声で呼ばわりました。
 すると、その武者、馬首をめぐらせ戻ってきます。
 浜辺に上がると、太刀で二、三切り結びましたが面倒なりと、直実が組ついて馬から落とし、組しいて、短刀を抜き首にあてようとして、よく顔を見ると、16、7の美しい少年です。
 直実は、こんな少年の首をうったとて手柄にならん。こんなことなら呼びもどすでなかったと後悔して、助けてやろうと思って手をゆるめかけているところへ、源氏の騎馬武者がやってきて、「やあやあ直実、おくしたか。」とよばわりました。
 しかたなく直実は、心を鬼にして、この若者の首を落としました。
 この若者が平敦盛で、よろいの箆（えびら）に青葉の笛をさしていました。
 昨夜、平氏の陣中から聞こえてきた笛の音は、この若者が吹いたのかと思うと、直実の心の中には悲しみがいつそうつのってくるのでした。



今 須磨寺宝物館では この「青葉の笛」が公開されている。
 また、境内には敦盛供養塔〔首を葬ったという敦盛首塚〕があり、須磨浦公園には胴体を葬ったという敦盛塚がある。

10. 2. 須磨寺 門 前 & 須磨寺名物「卯の花」



山陽電鉄「須磨寺駅」から須磨寺山門まで、両側にぎっしりと軒先を並べた商店街が続いている。昔は古い商店街であったが、地震後再建されたきれいな商店街になっている。

途中 「大本山 須磨寺」の碑のところは五差路のロータリーになっていて、其の角でそのまま真っすぐ須磨寺へ進む参道と須磨離宮へ登って行く道とに分かれる。このロータリー狭かったのに随分広くなった。この角に「須磨冷泉」といって地元の人達が守ってきたうまい湧き水が出ている。

地震でここも無茶苦茶になったところであるが、きっちり整備され、湧き水が管理されているのに安心。また この角にやはり名物「卵の花」を売り物にした鮎屋があったのですが、移ってしまっていた。



山陽電車 須磨寺駅からの参道 五差路から須磨寺への参道 須磨寺 山門前
須磨寺 門前町 界限

この須磨寺への表参道をなす山陽電鉄須磨駅からの商店街は昔から「お大師さん」の日には人でごった返す。随分明るくなって 案内板や休憩所そして今風の土産物屋も増えてお大師さんのお参りばかりでなく観光客を意識した明るい門前に変身している。

今日は「お大師さん」ではないが、多くの観光客が三々五々両側に並ぶ店を覗きながら桜の須磨寺への道を楽しんでいる。



お鮎屋はないかとぶらぶら探すとありました。「須磨寺名物『卵の花』あります」の札と共に。



また、最近「アエラ」で見た「花巻寿司」の「しらはますし」も。こっちの方は私はよく知りませんでしたが、巻き寿司の具を一度卵で巻いてさらに巻き寿司にした太巻き寿司。最近「卵の花」よりこっちの方が有名とか 聞きました。でも やっぱり須磨では「卵の花」

須磨寺 名物 「卵の花」と 「花巻」



「卵の花」しめ鯖の握りにおからを散らした鮎 花 巻 穴子などの具を卵で巻いた巻寿司

「卯の花」と「花巻」の両方を買って求め、家に帰って早速二人で「うまい うまい」と舌つつみ。
「卯の花」は おから・卯の花がさばの上から軽く撒かれているだけなのですが、さばの握りやさば寿司・バッテラ とは違う美味しい味。 もともと二人とも寿司が好きなのですが、神戸・須磨に住んで初めて知った味。

久しぶりの味に満足。「しらはまずし」の「花巻」も goo

長い事通らなかった街ですが、本当に大きく変身。 神戸須磨でもお奨めのスポットです。

今度誰か来たら、この須磨寺から須磨寺界隈を案内して「卯の花と花巻寿司」で食事。これに決めました。

2002.3.30. 須磨寺名物「卯の花」に舌つつみをうちながら



源平の昔の「青葉の笛」と門前に「卯の花」を訪ねる

神戸 桜の須磨寺

【完】